

地理歴史科(世界史B)学習指導案

大規模な分業体制の成立
(高等学校 第2学年)
神奈川県立総合教育センター



【『平成 20 年度研究指定校共同研究事業(高等学校)授業改善の組織的な取組に向けて』
平成 21 年 3 月】

平成 20 年度研究指定校である大井高等学校において、授業改善に向けた組織的な取組として授業実践を行った学習指導案です。

生徒に地球規模で大まかな地域のイメージをもたせる一方、生徒の知識・理解の度合いに応じた教材・プリントを活用した学習指導を行いました。

大井高等学校「世界史 B」学習指導案

1 学 年 第 2 学年

2 科目名 世界史 B

3 単元名 (教科書名) 大規模な分業体制の成立 (帝国書院「新詳 世界史 B」)

4 単元の目標

- ・ 16 世紀のヨーロッパ諸国の海外進出と世界の一体化の始まりについて、関心を高め、意欲的に追究しようとする。
- ・ 16 世紀のヨーロッパ諸国の海外進出と世界の一体化の始まりについて考察し、その歴史的意義を判断できる。
- ・ 16 世紀のヨーロッパ諸国の海外進出と世界の一体化の始まりに関係する諸資料を活用するとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現できる。
- ・ 16 世紀のヨーロッパ諸国の海外進出と世界の一体化の始まりについて理解し、その知識を身に付けている。

5 単元について

教材観・題材観

16 世紀はスペインやポルトガルをはじめとしてヨーロッパ諸国が大船を仕立て、積極的に海外進出をはじめた時期である。大航海時代とは、これまでの地域規模での歴史を超えて世界の一体化がはじまった画期ととらえる事ができる。この単元の内容は、ヨーロッパ人たちがアメリカやアフリカなどに何をもたらしたか、またヨーロッパ自身がどのように変化したのかなどグローバル化の進んだ現代世界の有様を考える上での重要な教材となる。

生徒観 (生徒の状況)

歴史認識については「コロンブスという名前を聞いたことがある」程度と思われる。また世界地図の把握という点においても、主要な大陸や海洋の名称や位置関係についてあいまいな理解しかない生徒が多くいる。

指導観 (主な支援)

世界地図のおおざっぱな把握 (ヨーロッパ、アメリカ、アフリカ、大西洋、太平洋など) ができるようにさせる。コロンブスや奴隷、香辛料などといったなじみのあるキーワードを手掛かりに時代背景をつかめるようにさせる。

6 解決を目指す課題

世界史の基礎知識が不足していることによって現代の社会の状況を理解できない。

7 課題解決の方法

本単元の中の『ヨーロッパ人による世界進出、大航海時代』において、生徒が地球規模で大まかな地域のイメージをもつことができ、またヨーロッパ人が世界進出していった時代背景について理解しやすい、生徒の知識・理解の度合いに応じた教材・プリントを作成し、活用する。

8 課題解決の状況を確認する方法

- ・ プリントへの記入状況
- ・ 小テスト及び定期テストの解答状況

9 単元の指導と評価の計画

(1) 単元の時間数 4 時間扱い

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
16 世紀のヨーロッパ諸国の海外進出と世界の一体化の始まりについて、関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	16 世紀のヨーロッパ諸国の海外進出と世界の一体化の始まりについて考察し、その歴史的意義を判断している。	16 世紀のヨーロッパ諸国の海外進出と世界の一体化の始まりに関係する諸資料を活用するとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	16 世紀のヨーロッパ諸国の海外進出と世界の一体化の始まりについて理解し、その知識を身に付けている。

(3) 指導と評価の計画

時	学習内容	指導内容	評価規準 【評価の観点】	評価方法
1 (本時)	(1 節) 大航海時代、世界の一体化の始まりについて、理解をする。	(1 節) 大航海時代、世界の一体化の始まりについて、主要な出来事をプリントにまとめさせる。	16 世紀のヨーロッパ諸国の海外進出と世界の一体化の始まりについて、関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	プリントへの記入状況
2	(2 節) ルネサンスと宗教改革の歴史的な意義を理解する。	(2 節) ルネサンスと宗教改革時代の主要な人物についてプリントにまとめさせる。	【関心・意欲・態度】 16 世紀のヨーロッパ諸国の海外進出と世界の一体化の始まりに関係する諸資料を活用するとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。 【資料活用の技能・表現】	
3	宗教改革の内容について概略を理解する。	宗教改革の内容(特に新教と旧教の相違)についてプリントへの記入を通して理解できるようにさせる。	16 世紀のヨーロッパ諸国の海外進出と世界の一体化の始まりについて理解し、その知識を身に付けている。 【知識・理解】	プリントへの記入状況
4	(3 節) スペインの台頭とオランダの覇権、ヨーロッパ諸国がアメリカやアフリカに与えた影響やヨーロッパ自身の変化について考察する。	(3 節) スペインの台頭とオランダの覇権、ヨーロッパ諸国がアメリカやアフリカに与えた影響について資料を基に適切に考察させるとともに、ヨーロッパ自身の変化について教科書等の資料を使って考察できるようにさせる。	16 世紀のヨーロッパ諸国の海外進出と世界の一体化の始まりについて考察し、その歴史的意義を判断している。 【思考・判断】	プリントへの記入状況 小テスト

(4) 観点別評価について

指導と評価の計画に記載した評価規準の一部について、「十分満足できる」状況(A)と判断した具体的状況例と、「努力を要する」状況(C)と評価した生徒への手だてを記載した。評価規準の(時)は指導と評価の計画にある「時」とした。

【関心・意欲・態度】

学習活動における具体的評価規準(1・2時)	16世紀のヨーロッパ諸国の海外進出と世界の一体化の始まりについて、関心を高め、意欲的に追究しようとしている。
「十分満足できる」状況(A)と判断した具体的状況例	16世紀のヨーロッパ諸国の海外進出と世界の一体化の始まり、及びルネサンスと宗教改革の意義についてのプリント作成に当たり、資料を積極的に活用して意欲的に追究しようとしている。
「努力を要する」状況(C)と評価した生徒への手だて	生徒にとって身近な話題を取り上げるなど、声をかけ丁寧に励ます。

【思考・判断】

学習活動における具体的評価規準(4時)	16世紀のヨーロッパ諸国の海外進出と世界の一体化の始まりについて考察し、その歴史的意義を判断している。
「十分満足できる」状況(A)と判断した具体的状況例	ヨーロッパ・アジア・アメリカ・アフリカがそれぞれどのような点で変化したのかを具体的に把握し、これらを基に判断している。
「努力を要する」状況(C)と評価した生徒への手だて	プリント作成に際して、アドバイスを与えるなど個別に対処する。

【資料活用の技能・表現】

学習活動における具体的評価規準(1・2時)	16世紀のヨーロッパ諸国の海外進出と世界の一体化の始まりに関係する諸資料を活用するとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。
「十分満足できる」状況(A)と判断した具体的状況例	資料から世界の一体化、ルネサンス、宗教改革、価格革命、商業革命などについて読み取り、プリントにまとめることができる。
「努力を要する」状況(C)と評価した生徒への手だて	プリント作成に際して、アドバイスを与えるなど個別に対処する。

【知識・理解】

学習活動における具体的評価規準(3時)	16世紀のヨーロッパ諸国の海外進出と世界の一体化の始まりについて理解し、その知識を身に付けている。
「十分満足できる」状況(A)と判断した具体的状況例	16世紀のヨーロッパ諸国の海外進出と世界の一体化の始まりについて、各事象を関連付けて理解している。
「努力を要する」状況(C)と評価した生徒への手だて	確認プリントの添削を通じて適切なアドバイスを個別に与える。

10 本時の展開（単元の 1 時間目）

(1) 本時の目標

- ・大陸や海の位置関係について、概略を把握する。
- ・ポルトガルとスペインが大航海に乗り出した事実と時代背景、航路について把握する。

(2) 本時の指導過程

過程	学習活動	指導内容	指導上の留意点	評価規準【評価観点】(評価方法)
(導入) 0～10分 (10分)	大陸や大洋、大国の名称をプリントに書き込んでいく。	大陸や海の位置関係を理解させる。	机間指導をしながら、作業をしていない生徒に作業を促す。	
(展開) 10～40分 (30分)	ヨーロッパ人が海外進出していった理由を理解する。 ポルトガルとスペインがたどった航路について概略を把握する。 スペインが到達した当時のアメリカの様子を理解する。	「金」と「胡椒」に代表される産物がアジアへのあこがれを高めたことを説明する。 主要な地名や航路をプリントに記入するよう指示する。 アメリカの基本的な地名、文化についてプリントをまとめさせる。 本物の卵を使って「コロンブスの卵」の話をし、コロンブスについての興味・関心を高めさせる。	実物の胡椒を用いるなどして「金」と「胡椒」の価値について実感できるように説明の仕方を工夫する。 スペインとポルトガルの進み方の違いについて押さえる。 授業の速さについて行けない生徒については、教科書のどこを見たらよいか具体的にアドバイスをする。	16世紀のヨーロッパ諸国の海外進出と世界の一体化の始まりに関係する諸資料を活用するとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。 【資料活用 of 技能・表現】(プリントへの記入状況)
(まとめ) 40～50分 (10分)	教科書から以下の点をまとめる。 ・基本的な地名 ・ヨーロッパ人がアジアを目指した理由 ・ポルトガルとスペインがアジア・アメリカに進んだ航路	確認のためのテストプリントを配付する。	分からないところはプリントや板書を見ながらやるよう指示をする。	16世紀のヨーロッパ諸国の海外進出と世界の一体化の始まりについて、関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 【関心・意欲・態度】(作成したプリントの内容)

11 解決を目指した課題の解決の状況

地理的な基礎知識が不足していることを補うために、本時の導入として基本的な地名（海や大陸）についてプリントを使って確認をした。授業の展開では、視覚的な教材を用意し、知識の定着を図った。黒板に大きな世界地図をかき、その中で人物画(コロンブスやマゼラン等)を動かしながら実際の航路と時間とを追体験できるように説明を工夫した。また、胡椒等の実物を見せたり、本物のゆで卵を使って「コロンブスの卵」の状況を再現してエピソードを話したりして興味・関心をもたせた。さらに、授業の最後に、本時の確認プリントへの記入を通して知識の定着を図った。

「大航海時代」と現代世界とのつながりについての学習を深めていく上で、今後に向けた良いスタートとすることができた。世界史の基礎知識を定着させるきっかけになり、現代の社会状況の理解につなげることができた。

12 授業実践に関する成果と課題

授業後の生徒の授業振り返りシートでは、

「教材に興味をもて、授業に乗りやすかった」

「授業の流れが自然で、プリント、練習問題など取り組みやすかった」

「講義や説明、先生の質問や板書が分かりやすかった」

「生徒が自分で学ぶ場面があった」

「先生に質問すると、分かりやすい回答が返ってきた」

「板書されたことを書きとめる、先生の発問を考える、積極的な発言をするなど、授業に集中できた」

の項目について、「とてもそう思う」「だいたいそう思う」「あまり思わない」のいずれかで回答させたところ、すべての項目で「とてもそう思う」と答えた生徒の割合が80%を超えていた。

こうした点からも、授業の内容、構成ともに適切であったと思われる。また実物教材・人物画・世界地図等、生徒の視覚に訴えたことで生徒が積極的に発言し、興味・関心をもったことがうかがえた。今後は本時に学んだ大航海時代についての基礎的な知識が、他の情報とも有機的に結び付きながらしっかりと定着し、その上で今後の学習の中で現代の社会状況の理解へとつなげていけるかが重要な課題である。

1 大航海時代～世界の一体化のはじまり

アジアの栄華にあこがれて(p123) アメリカの発見(p124)

ヨーロッパ人にとって、繁栄するアジアへのあこがれは強く、多くのものが『黄金の国(1)』をめざした。

問1 ヨーロッパ人は(1)のことをどうやって知ったのか？ 答え(2)によって知った。

東方貿易とうほうにたよらずに、アジアへ行って直接貿易を行えば、(3)などを大量に得られる。

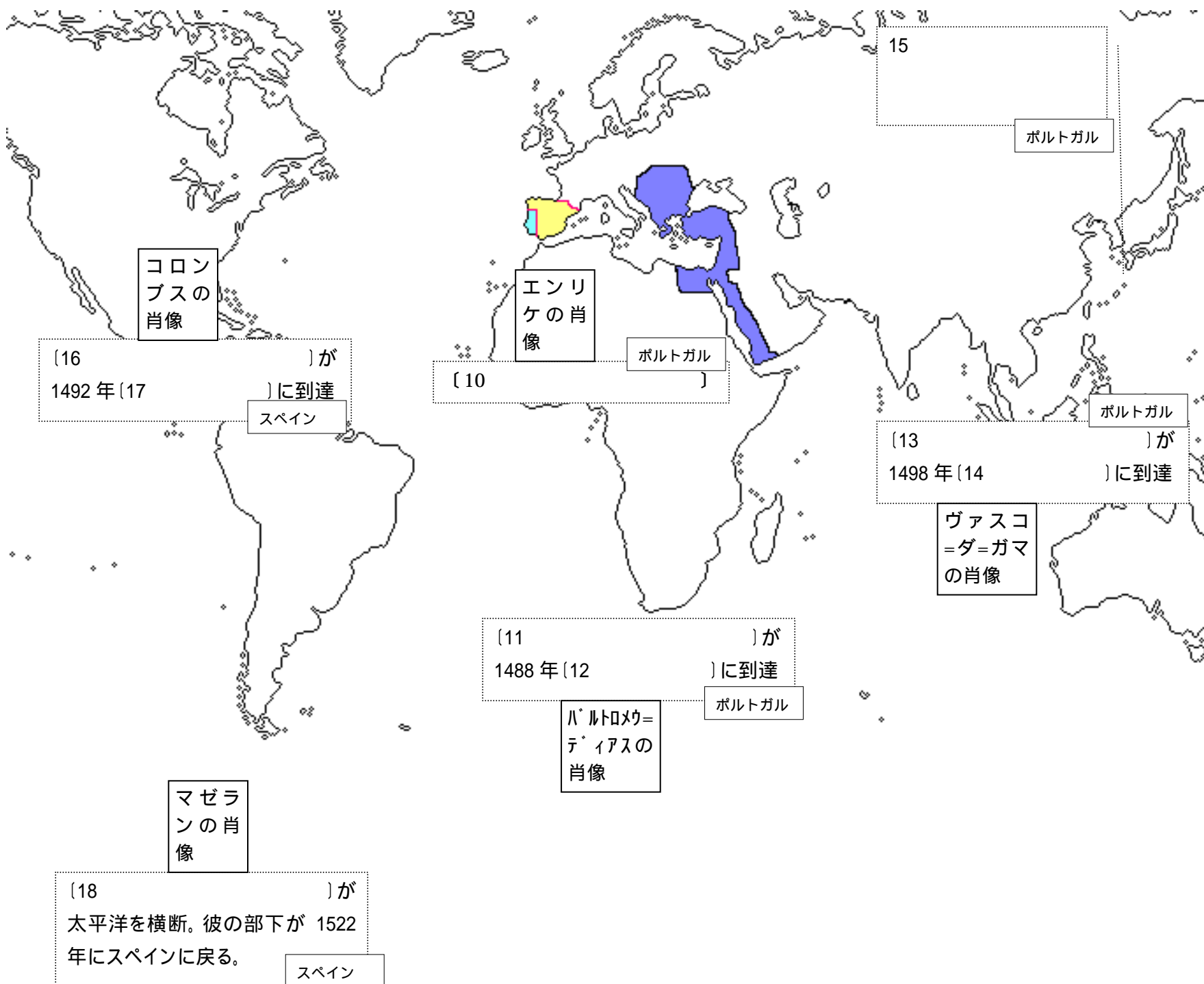
キリスト教徒を増やせば、オスマン帝国の(4)を、はさみうちにもできる。

これまでヨーロッパ人が考える世界の姿は『(5)の世界地図』に影響を受けた古い考え(間違いだらけ...)。

- ・15世紀になって『トスカネリ』の(6)が登場。
- ・星がなくても正確に方角を知ることのできる(7)が登場。
- ・知らない土地で敵と戦うための武器(8火薬)が登場。
- ・正確な情報をひろめる(9活版印刷術)が登場。



(7) (8) (9)はルネサンスの3大発明



予習 アメリカの伝統文明(p125)

前 1200 ~ 前 400	・ { } 文明が成立
前 2 世紀 ~ 6 世紀	・ 絵文字や石づくりのピラミッドを残した { } が繁栄した。
4 世紀 ~ 15 世紀	・ ユカタン半島に { } 文明が栄えた。 ・ 象形文字(マヤ文字)や { } というカレンダーが使われた。
14 世紀 ^{なか} 半ば ~ 1521 年	・ メキシコに { } 帝国が栄えた。 ・ { } を都とした。 ・ { } 人に滅ぼされた。
1250 年ころ ~ 1533 年	・ { } 帝国が南米のクスコを中心に栄えた。 ・ { } と呼ばれる ^{なわ} 縄文字を使った。 ・ { } 人に滅ぼされた。

確認プリント

問1 ヨーロッパ人(ポルトガル人とスペイン人)が海外に進出して行った理由を3つ挙げなさい。

() に行つて“^{おうごん}黄金”を手に入れたい!

() を大量に買つてきて、ヨーロッパで売つて大もうけ!

海の向こうのキリスト教国と手を組んで() 帝国をたおすぞ!

問2 次の文章の(空欄)に正しい言葉を当てはめなさい。

「ポルトガルは() に向かってアジアをめざし、
 スペインは() に向かってアジアをめざした。」
 (空欄)には“東” “西”のいずれかを入れること。

問3 次の人物の業績(成し遂げた仕事)について説明しなさい。

A バルトロメウ=ディアス

(1)大陸の最も南側をまわることに成功して、インドへの道を見つけた。
 大陸の最南端は(2)峰とよばれる。

B ヴァスコ=ダ=ガマ

オスマン帝国をとおらずに、アフリカをまわつてインドの(3)に到達することに成功した。

C コロンブス

(4)の地球球体説にしたがつて(5)洋を横断し、(6)大陸への航路を開発した。

D マゼラン

大西洋と(7)洋を横断し、彼の部下は西回りで地球を一周した。

2年()組 氏名()